

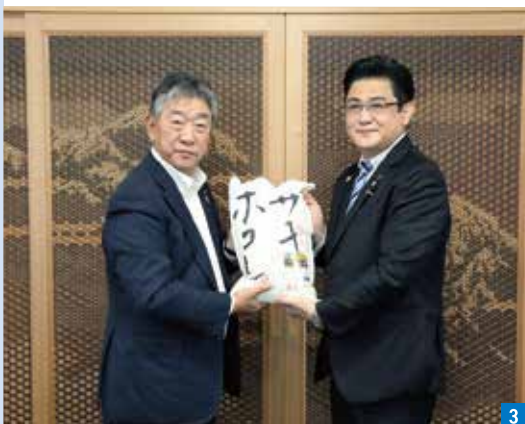
## 農業経営への支援に向けて3市と連携

今年産米の作柄不良や、世界情勢の影響による燃料や生産資材の高騰などを受け、当JAから秋田市へ農業経営の安定化に向けた支援を要請しました。11月18日(金)に佐藤広美組合長らが穂積志市長に要請書を手渡し、佐藤組合長が「農業経営への影響が大きく、農家のモチベーションにも関わる状況。持続可能な農業をしていくため、対策をお願いしたい」と呼び掛け、穂積市長は「農家の営農意欲が持続し、来期に繋がるように支援したい」と話しました。

28日(月)には吉田文勝副組合長らが男鹿市役所と潟上市役所を訪れ、地域農業への支援に早急な対応をいただいたことへの感謝を伝えました。男鹿市の佐藤博副市長や潟上市の鈴木



1



3



2

雄大市長と、農業情勢など今後の生産振興に向けた情報交換も行いました。  
1 2 3 今後も自治体と連携した素早い農業支援に努めます

## NEWS & TOPICS

### 秋田赤十字乳児院に新米などを贈呈

11月9日(水)、当JAから秋田赤十字乳児院に新米「あきたこまち」200キロと秋田市産リンゴ20キロ、米粉入りクッキー30個を贈りました。乳幼児の養育への支援や地元農産物に親しみを持つってもらう目的で、今回で12回目です。

佐々木専務が「秋田で育った農産物を食べて笑顔になり、大きく育ってほしい」と呼び掛け、子どもたちは「あきたこまち」の10キロ袋やリンゴに笑顔で手を伸ばしました。同院からのサプライズで、感謝状もいただきました。

当JAが贈った農産物は給食で活用され、同日の夕食時には新米を使って「だまこ鍋会」が開かれました。



佐々木専務からリンゴを受け取る子ども

### 「わかみメロン」昨年度を上回る高単価

「わかみメロン」の今年度の販売額が、前年度比115.2%の1億1857万円に上りました。販売単価は同比122.1%の1ケース当たり2796円で、平成元年以降で最も高い単価となった前年度を上回りました。今年度は42戸の生産者が「わかみメロン」を栽培し、6月30日(木)から8月9日(火)までに4万2404ケースを出荷しました。

11月17日(木)に若美支店で開かれた実績検討会で、販売実績が報告されました。出荷実績が模範的な生産者の表彰も行われ、販売の部で西方文敏さん、生産の部で加藤悟さん、高品質安定生産の部で栄田元さんが優秀賞に輝きました。



優れた出荷実績を称えられる生産者(左)